

9. 益田赤十字病院【三匹のかえる】

内服に関する業務を整理しよう

☆藤岡 美子(看護師)

○藤岡 美子(看護師)

【目的】内服作業は、持参薬・毎回配薬・自己管理・処方箋の取り扱いと様々である。安全性、正確性を求められ、看護師が長い時間を使い大変さを感じる業務でもある。看護師にアンケートをしたところ、持参薬の取り扱いに80%の人が大変さを感じていた。そこで、安全にかつ作業のスリム化を実現するため、今回の取り組みを行った。

【実施対策(方法)】意識調査、内服に関わる作業時間調査、持参薬の取り扱いの流れについて現状把握し、目標を「持参薬の取り扱いに対する大変と感じる人数が30%減少する。」とした。その後、要因分析を行い、①医師に必要な薬のみ継続してもらい依頼と処方依頼シートの作成 ②院内のポリファーマシー活動との協力・持参薬の取り扱い手順の整理について ③退院後を見据えた自己管理方法について、対策を立案し実施した。

【効果】「大変さが減少したと思っている看護師が56%」となり、作業の負担感の軽減に繋がった。また入院中からの自己管理方法についてアセスメントを行い、内服練習や家族や社会資源の活用を検討できるようになった。

【考察】今回の活動において、持参薬の流れを表にすることで対策立案しやすくなった。また医師や薬剤師との連携の重要性、ポリファーマシー活動との協力で必要以上の薬剤は減量して行くという意識づけにもなった。さらに、自己管理の負担感の軽減にも繋がったのではないかと考える。

10. 松山赤十字病院【医療の質向上推進部会】

チーム医療活動の監視・支援体制の構築とその効果

☆横山 幹文(医師)

○西山 政孝(臨床検査技師)

【目的】チーム医療を評価し、支援するシステムの構築

【方法】①チーム医療の支援を目的に、日本医療機能評価機構QM研修修了者8名と幹事からなる医療の質向上推進部会(推進部会)を立ち上げた。②推進部会員と多職種協働チーム員とで活動のヒアリングを行い、チーム活動内容の説明、課題の抽出、年度毎に改善が判るQI指標と、それに伴う計画・実行・確認方法を協議する(この場で推進部会からチーム員に質向上のためのPDCAの一例を提示する場合あり)。③各チームで協議内容を基に必要に応じQI指標の変更を検討し、継続的改善を表すPDCAを作成する。また、新たなQI指標を設定した場合は各チームのBSCに指標と行動計画を明記し、評価は四半期毎に行うこととした。④完成したPDCAサイクルは病院HPと松山日赤院内報に掲載し、地域住民と全職員に可視化した。

【結果】現在、NSTを除く7チームとのヒアリングを実施した。PDCAサイクルを作成し、HPへ掲載したのは3チームに留まった。PDCA作成を推進するため2019年度から各チームに推進部会員が1名ずつ就き支援することとした。

【考察】チーム医療の質向上を図るシステムを構築したことで新たなQI指標を策定する契機となり、湧出した課題もチーム内で共有できるようになった。本評価・支援システムの構築により、活動を支援されていると感じるチームもあり、病院全体から見られ、支援されることで、更なるやる気に繋がることを期待している。